

同窓会連合会報



稲盛和夫鹿児島大学名誉博士像

(平成29年3月27日建立)

特別 寄稿

医科歯科連携医療 —新たなシステム作りに向けて—

山口 泰平(鹿児島大学病院 歯科口腔ケアセンター)

実戦で役立った化学工学

前田 雄一(工学部化学工学科 S49年卒業)

「技術士」の“目”で鹿児島環境を診る

東 正樹(工学部応用化学工学科 H8年卒業)

鹿児島大学同窓会連合会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の学部別同窓会（以下「学部別同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 学部別同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる学部別同窓会及び特別会員をもって組織する。

学部別同窓会

- 鹿児島大学法文学部同窓会
- 鹿児島大学教育学部同窓会
- 鹿児島大学理学部同窓会
- 鹿児島大学医学部同窓会
- 鹿児島大学歯学部同窓会
- 鹿児島大学工学部同窓会
- 鹿児島大学農学部あらた同窓会
- 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

特別会員

- 鹿児島七高同窓会

第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1人
- (2) 副会長 若干人
- (3) 代表幹事 1人
- (4) 幹事 学部別同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ若干人
- (5) 評議員 学部別同窓会から各4人
- (6) 監事 若干人
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、副会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。

2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

4 幹事は本会と学部別同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。

6 監事は会計の執行状況の監査を行う。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。

3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

2 総会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 役員の仕事に関する事項
- (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
- (3) 予算及び決算に関する事項
- (4) 会則の改廃に関する事項
- (5) その他会長が必要と認めた事項

3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。

4 総会は、第1項に規定する役員の仕事の過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、学部別同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、当分の間、鹿児島大学内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

第 24 号の会報発行（平成 29 年夏）に寄せて

同窓会連合会 会長 江口 正純



進取の気風にあふれた総合大学を目指している母校の国立大学法人鹿児島大学は、既に 10 万人を超える O B, O G を全国各地や遠く海外に送り出してきましたが、その皆様方はそれぞれの地域に於いて存在感を発揮しながら御活躍頂いておられる事は御同慶の至りと存じます。

連合会はこの様な同窓生各位の縦の絆となっている各学部の同窓会の独立性を尊重しながら各学部同窓会の会長並びに幹事の諸氏が年に数回集い合う事によって横の絆の連携を深めて参りましたが、毎年 2 回発行している会報を通じて母校や各学部同窓会の近況が明確に認識される事で「オール鹿大」という枠組みが一段と浮かび上がってきているところでもあります。

その事は 4 月に開催される総会後の懇親の場「鹿児島大学卒業生の集い」が今年は 180 名を超える程に盛会になってきましたし、4 月 23 日（日）に開催された O B, O G ゴルフ大会も 210 名と増えてきて、昨年の歯学部が続いて今年の工学部同窓会の総合優勝は参加者全員の盛大な拍手にも表われてきているところでもあります。

こうした母校や在学生に対する思いを受ける形で昨年 12 月 17 日（土）にも「きばいやんせ 鹿大生 2016！」が開催されました。

この会は福岡に在住している高原要次氏（1978 年法文卒）がブラジル留学中に出逢った中南米研究会、海外研究会のメンバーの中からその後も海外で活躍し、東京等に帰国されていた方々に呼びかけて、就職を目指している在学生に「きばいやんせ」とハッパをかけた会なのであります。

昨年もこの会を傍聴いたしました。手弁当で駆けつけてくれたメンバーの熱い思いは、在学生には強い印象として残ったものと考えているところです。

このメンバーの大半は 2 年連続で参加してくれましたが、前田学長からは「鹿児島大学友好大使」の委嘱状が手渡され、その心意気を称えて頂いた次第であります。

第 3 回目は今年の 12 月に O B, O G の 40% 以上が職に就いている地元鹿児島県の代表の中からその役を受ける事が決まっておりますし、来年の第 4 回は既に連合会福岡支部のメンバーが手をあげておりますので、今後も連合会が中心となって人選をすすめ、毎年恒例の行事にしていきたいと考えているところでもあります。

来年、2018 年の鹿児島は「明治維新 150 年」の節目の年にあたりますし、NHK 大河ドラマは「西郷（せご）どん」が登場する事になっております。

私共、O B, O G が生まれ育ち、或いは他県から来られて青春を謳歌された郷土「鹿児島や母校」に対する誇りと愛着で次代を担う志の高い青少年を育成していこうという思いを受けて、我が鹿児島大学が更に熱い期待に応えていかれる事を祈念し、ご挨拶といたします。

目 次

第 24 号の会報発行（平成 29 年夏）に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	7
特別寄稿（歯学部、工学部）	15

学 長 挨 拶

鹿児島大学長 前田 芳實



同窓会会員の皆様には、日頃より鹿児島大学の教育・研究に関しましてご理解とご協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

さて、本学は、鹿児島の教育的伝統である「進取の気風」を継承し、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として「進取の気風にあふれる総合大学」を目指して取り組んでいます。

本学は地域に貢献する総合大学として、地域の自然、歴史、風土、産業、コミュニケーションの特色を背景に、基礎科学を重視し、地域の教育、医療、経済産業、コミュニティー、防災、危機管理に貢献する人材、並びに社会の変革に対応できる人材を養成するために、今年度から、新たに、学部横断型の教育を展開する土台として「地域人材育成プラットフォーム」を開設いたしました。

この「地域人材育成プラットフォーム」は、地域就業に主眼を置く「かごしまキャリア教育プログラム」と地域の歴史や伝統、文化、自然を学際的に学ぶ「かごしま地域リサーチ・プログラム」の2つの教育プログラムで構成されており、いずれも中長期のインターンシップや海外研修等を含み、座学で地域に関する学習をするだけでなく、その知識の活用能力を高め、卒業後にいち早く活躍するための能力を身につけることを目指してまいります。

また、本年3月には、本学卒業生の稲盛和夫名誉博士のこれまでの幾多のご功績と本学に対する多大なご貢献に対しまして、深甚なる敬意と謝辞を表し、また後に続く本学や郷土の後輩たちに、稲盛名誉博士の功績を伝えるために、本学中央に位置する「進取の気風広場」に稲盛和夫名誉博士の立像を建立いたしました。

稲盛和夫名誉博士の立像を本キャンパスに顕彰することは、本学の「進取の精神」のシンボルとして、学生、教職員、同窓生のさらなる飛躍の原動力となるとともに、多くの県民の皆様にも親しく集っていただき、稲盛和夫名誉博士の人間教育の神髄にも触れる機会になるものと期待しております。

本学は、これからも様々な改善・改革にスピード感をもって取り組むとともに、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重して、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学として発展して参りますので、今後とも同窓会の皆さまのご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

鹿児島大学の近況

—進取の気風にあふれる総合大学—

(2016年11月から2017年4月までのトピックス)

○日置市と包括連携協定を締結（11月1日）

鹿児島大学は、日置市と包括連携に関する協定書を締結することに合意し、11月1日に日置市役所において協定締結式を執り行いました。

この連携協定は、それぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的としており、宮路日置市長から、まちづくりの提言への期待と複式学級への実習生の受入等をはじめ、あらゆる分野で連携していきたい旨の発言があり、また前田学長は「協定締結を機に、本学が標榜している地域社会の発展と活性化への貢献に挑んでいく決意を新たにしました」と述べました。

○稲盛アカデミー主催による、第32回京都賞受賞者を囲む鹿児島コロキウムを開催（11月15日）

京都賞は京セラ株式会社名誉会長の稲盛和夫氏により設立された稲盛財団が運営し、科学や文明の発展と人類の精神的深化高揚に著しく貢献した人々に贈られる国際賞で、本年の第32回受賞者は、先端技術部門（情報科学）に金出武雄博士（ロボット工学者 カーネギーメロン大学ワイタカー記念全学教授）、基礎科学部門（生命科学）に本庶佑博士（医学者 京都大学名誉教授）、思想・芸術部門にマーサ・クレイヴン・ヌスバウム博士（哲学者 シカゴ大学エルンスト・フロインド法学・倫理学特別功労教授）の3名が選ばれました。

鹿児島大学では京都賞受賞者鹿児島講演会に先立ち、11月15日に、部門ごとに受賞者を囲み、教員と大学院生が学術的交流を目的に討論や意見交換を行う会（鹿児島コロキウム）を開催し、それぞれの分野で最高峰に位置する受賞者と直接議論が出来たことは、鹿児島コロキウム参加者にとって大きな財産となりました。

○鹿児島大学「黒膳研究会」が監修した「薩摩黒膳弁当」を販売（12月10日）

黒豚、黒酢、黒糖など鹿児島を代表する黒の食材と、黒、赤、紫の色素が豊富な鹿児島の野菜を黒野菜と呼び、これらの機能性を分析、健康になる食事を提案するプロジェクトが「黒膳研究会」であります。

黒膳研究会には、鹿児島大学の教員に学外の研究者も加わり、高機能食材の探求とメニューの開発を進めてきましたが、12月10日に、地元業者と提携して鹿児島中央駅のみやげ横丁で「薩摩黒膳弁当」の販売を開始しました。

黒膳研究会は今後も鹿児島の食材の機能性を評価することで、地域経済の活性化に寄与し、黒の食材の研究を進めるとともに自治体や企業と連携し情報発信を行っていきます。

○理工学研究科が肝付町と包括連携協定を締結（1月27日）

鹿児島大学理工学研究科は、肝付町と包括連携に関する協定書を締結することに合意し、鹿児島大学において協定締結式を執り行いました。

この協定は、それぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的としており、永野町長から、「地域資源を活用して共に成長できる町を目指したい」との挨拶があり、また、近藤研究科長からは「肝付町は農林水産業の維持もまだ厳しく試行錯誤は続くが、モデルケースとなるよう取り組む」との挨拶がありました。

○鹿児島大学病院が瀬戸内町と包括連携協定を締結（2月15日）

鹿児島大学病院と瀬戸内町は、鹿児島大学病院において、包括連携協定締結式を執り行いました。

この協定は、医療、学術、教育を根幹に連携協力し、相互の発展と、未来に希望が持てる社会を築くことを目的としており、挨拶では、鎌田町長から「瀬戸内町で行政、医療機関や住民が一体となり進めている高

齢者を見守るネットワークづくりに協力をいただきたい」と期待が述べられ、熊本病院長からは「地域医療を守るのは大学の使命であり、離島での医療福祉を支える人材育成にも努めていきたい」と抱負が述べられました。

○アジアの学生と交流「鹿児島県の自然と災害から環境保全を学ぶ」(JST さくらサイエンスプラン)(3月5日)

鹿児島大学グローバルセンターでは、日本科学技術振興機構(JST)の「日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)」により、3月5日～11日にインドネシアのアンダラス大、ボゴール農科大、バンドン工科大、マレーシアのサバ大から学部生7名と大学院生3名を招へいし、交流事業「鹿児島県の自然と災害から環境保全を学ぶ」を行いました。

3月6日、7日の両日は、5回の講義で日本の文化、鹿児島県の自然と環境、水銀汚染問題、自然保護区の管理問題、桜島の自然についての基礎的な知識を得てもらい、日帰りの桜島見学では、火山と自然とそこに暮らしている人々の生活を観察しました。

3月8日は新幹線で水俣へ移動し、水俣病の状況について理解するために水俣病総合研究センターと水俣病資料館を見学しました。出水市では、ツル観察センターで増加したツルの問題について考察。また、日本の伝統的な建物の観察として武家屋敷を訪れました。

3月9日は川内川流域の鶴田ダムと曾木の滝で、川内川の洪水対策について視察。えびの高原では国立公園の管理について考察し、最終日の3月10日は尚古集成館と仙巖園を訪問し、世界遺産になった明治の産業革命遺産を見学しました。

全員が初来日の学生だったが、これを機会に、今後も留学等により本学との交流が続く事を期待しております。

○鹿児島県立出水高校が地域人材育成に向けた取り組みを視察(3月22日)

地域振興やそのための人材育成について学ぶため、鹿児島県立出水高校の生徒会役員15名が鹿児島大学を訪問しました。

はじめに、かごしまCOCセンター出口英樹特任准教授が、全学必修授業科目「大学と地域」や学部横断型教育「地域人材育成プラットフォーム」について説明し、続いて、ブラジル出身の留学生ウエンデル・マルチンス(Wendell Martins)さんから、井倉洋二准教授(農学部)と平瑞樹助教(農学部)、大前慶和教授(法文学部)、酒井佑輔講師(かごしまCOCセンター)らが担当した共通教育授業の「鹿児島県の地域に学ぶ」を通じて出水市で取り組んだ事例について発表しました。大前教授とゼミ生からは「エコスイーツ活動」のこれまでの歴史や活動の特徴、ユニークな取り組みについて説明があり、出水高校の生徒からは、「エコスイーツの取り組みが興味深かった」や「出水市のインバウンド促進を考えるうえで、留学生から直接参考になる意見を聞いて良かった」等の意見も出るなど、積極的な意見交換を交わしました。

○平成28年度卒業式・修了式を挙行(3月24日)

鹿児島県総合体育センター体育館において平成28年度(第65回)鹿児島大学卒業式・修了式を挙行されました。

今年度卒業・修了生は、学部卒業生1,941人、大学院修了者529人の計2,470人で、各学部・研究科の総代へ学部長・研究科長から学位記が授与されました。前田学長は、告辞で「今、私たちは、混沌とした世界情勢に直面し、様々な課題を抱えています。このような時代の中にあって、諸君は、鹿児島大学で培った進取の精神を備え、それぞれが習得した専門知識や技術に加え、課題解決力、企画力、コミュニケーション力、ならびにリーダーシップを遺憾なく発揮し、これからの日本ならびに国際社会の発展に力強く貢献していただきたい」と激励されました。卒業生総代答辞では、医学部の川浪優さんが「仲間達とのかけがえのない思い出は、私たちの大きな支えとなり、明日への原動力となります。大学時代の素晴らしい経験を胸に、社会という荒波に立ち向かってゆくことを、卒業生を代表してここに誓います」と力強く述べられました。

○稲盛和夫鹿児島大学名誉博士像完成披露記念式典(除幕式)を挙行(3月27日)

鹿児島大学学習交流プラザ「進取の気風広場」に、本学工学部卒業生で名誉博士の稲盛和夫氏(現京セラ(株)名誉会長)の立像を建立しました。3月27日にその記念式典(除幕式)が行われ、前田芳實学長、稲

盛和夫名誉博士をはじめ、三反園訓鹿児島県知事、森博幸鹿児島市長、岩崎芳太郎鹿児島商工会議所会頭、江口正純同窓会連合会会長など約 100 名が出席しました。

はじめに、前田学長から「本学の教育理念である『進取の精神』のシンボルとして、学生、教職員のさらなる飛躍の原動力となるとともに、稲盛和夫名誉博士の人間教育の神髄にも触れる機会になるものと期待しています」と挨拶がありました。三反園知事からの来賓者代表祝辞に続き、前田学長や稲盛氏らによる除幕が執り行われ、披露された立像に会場から盛大な拍手が送られました。

これまで稲盛氏は、本学の経営協議会委員や学長諮問会議委員として運営に協力するとともに、科学技術を中心とした知的交流を促進するための「稲盛会館」の寄贈、人間力の総合的育成を目指す「稲盛アカデミー」の発足及び「稲盛アカデミー棟」の建設支援、学生支援のための稲盛奨学基金の創設など、本学の教育研究の発展に多大な貢献をされており、平成 11 年には本学第 1 号となる名誉博士の称号を授与されています。

また、鹿児島県内の高校生や大学生などを対象に京都賞受賞者による「鹿児島講演会」の開催など、地域の教育及び国際交流の発展にも尽力されています。

これらの長年の功績と貢献に敬意と謝意を表すとともに、後に続く本学や郷土の後輩たちにその功績を伝えるために立像を建立したものであります。

○鹿児島大学が平成 28 年度日本英語検定協会賞（団体の部）を受賞（3 月 27 日）

ANA インターコンチネンタルホテル東京において行われた公益財団法人 日本英語検定協会「平成 28 年度成績優秀者・優秀団体表彰式」で本学は、日本英語検定協会賞（団体の部）を受賞しました。

この賞は、英語教育の向上に積極的に取り組み、その発展に大きく貢献した学校・団体に贈られる賞で、本学は、グローバルに活躍する人材を養成するため、平成 29 年度入試から、英検準 1 級など外部英語試験で一定基準を満たした受験生に、大学入試センター試験「外国語」の得点を満点とみなす希望者優遇制度を導入しており、この制度の導入で、グローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。

○鹿児島銀行ならびに県内高等教育機関との「地方創生への取組みに関する連携協定」を締結（4 月 7 日）

鹿児島銀行の「かざん会館 with」において、鹿児島銀行ならびに県内高等教育機関との 9 者による「地方創生への取組みに関する連携協定」を締結しました。

本協定は、鹿児島大学と鹿児島銀行が相互に連携・協力し、互いが有する情報やノウハウ等を活用することにより、鹿児島県内の産業の発展および人材の育成を図り、地方創生の実現に寄与することを目的としております。

協定締結では、9 者による協定書への署名が行われ、その後、上村基宏鹿児島銀行取締役頭取の挨拶に引き続き、協定者代表として、前田学長から挨拶があり、「鹿児島大学は、これまで「オール鹿大」で地方創生に取り組んできました。今回、この「ネクストかごしま」(*)が設立されたことを契機に 8 校の皆様と共に「オール鹿児島」で取り組んでいきたい。」と連携に対する抱負を述べた。

(*)「ネクストかごしま」は、鹿児島県内の連携・協力事項を円滑に推進するため、本協定締結校 8 校を発起人大学とし、鹿児島銀行を事務局とした『鹿児島の次世代を担う「人材・産業」育成プラットフォーム』の組成のことであります。

○平成 29 年度入学式を挙（4 月 7 日）

鹿児島県総合体育センター体育館において、平成 29 年度鹿児島大学入学式を挙行しました。

今年度の入学生は、学部学生 1,979 名、大学院学生 617 名の計 2,596 名です。

前田学長は「皆さん一人ひとりが、250 年の歴史と伝統を有する鹿児島大学において、様々な研鑽を積む中で、新しい自分を発見し、「進取の精神」を育み、持続可能な社会の力強い担い手に成長されることを期待しております」と述べ、新入生を激励しました。

○「大学と地域」（全学必修科目）で三反園訓鹿児島県知事が講義しました（4 月 25 日）

全学必修科目（すべての学部生にとって卒業要件）である「大学と地域」に、三反園訓鹿児島県知事を講師として招き、「『新しい力強い鹿児島を目指して』～鹿児島大学の学生に期待すること～」と題して講義を実施しました。

今回の講義は、本年度から地域人材の育成や地元就職率向上の取組を促進するため開講する「地域人材育成プラットフォーム」の基盤科目となっており、講義は、10分野の科目のうち「農業」と「まちおこし・教育」を選択している学生の講義室で行われ、残り8分野を選択している学生の講義室にはインターネットで配信され、約1,100名が受講しました。

三反園知事は、テレビ局の元コメンテーターの経験を生かしたユーモアのある語り口で、学生たちに向けてクイズ形式で鹿児島の歴史に触れながら観光地を紹介し、農畜産物や温泉など鹿児島の魅力について講義しました。また、三反園知事から、「人生は決断の連続であり、決断には勇気が必要です。夢を実現するために勇気を持って一步を踏み出してほしい」とエールを送り、学生たちは熱心に聞き入っていました。

○教員の受賞等

- ①大学院医歯学総合研究科の馬場昌範教授が、第67回南日本文化賞（医療福祉部門）を受賞（11月1日）
- ②大学院理工学研究科の肥後盛秀教授（化学生命・化学工学専攻）が、九州分析化学会賞（11月18日）
- ③理工学研究科の小野智司准教授創作の意匠が鹿児島県発明くふう展で会長奨励賞を受賞（1月12日）

○海外の大学等からの学長表敬訪問

- ①中国・清華大学環境学院一行（1月19日）
- ②マレーシアトレンガヌ大学副学長一行（1月20日）
- ③ブラジル鹿児島県人会元会長（4月4日）
- ④淡江大学長一行（4月17日）
- ⑤アンダラス大学長一行（4月8日）

○学生・大学院生の表彰等

- ①理工学研究科 化学生命・化学工学専攻博士前期課程2年の原田晃行さんと1年の阿多優里菜さん、蔦本陽さんが「国際ジョイントシンポジウム」で「優秀ポスター賞」を受賞
- ②理工学研究科化学生命・化学工学専攻2年の宮地みどりさんと宮田英和さんが「第1回学生・若手研究発表会」で「学生賞」を受賞
- ④放送研究会の木田夕菜さん（法文学部1年）が、「第33回NHK全国大学放送コンテスト」で「朗読部門」全国2位を受賞
- ⑤ラグビー部の主将を務める中尾隼太さん（教育学部4年生）がラグビー日本代表（男子セブンズ）遠征メンバーに選出
- ⑥理工学研究科化学生命・化学工学専攻1年の寺地晃佑さんが「第22回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム」で「優秀ポスター賞」を受賞
- ⑦医学部5年の山本道雄さんが「大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」で「九州経済産業局長賞（準グランプリ）」を受賞

鹿児島大学『鹿大「進取の精神」支援基金』へのご寄附のお願い

鹿児島大学は、地域活性化の中核的拠点として、学生のグローバル教育の推進や地域に貢献する人材の育成など教育研究支援の強化に取り組むため鹿大「進取の精神」支援基金を創設いたしました。

つきましては、本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

なお、本学への寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。

◇基金の詳細につきましては、以下にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

・お問い合わせ先：鹿児島大学学長戦略室 TEL：099-285-3101 又は 3102 / FAX：099-285-7034

E-mail：s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

・基金ホームページ：http://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

1. 平成 28 年度法文学部卒業生・修了生の同窓会入会式及び送別会開催

平成 29 年 3 月 24 日（金）卒業式終了後 14 時 30 分より、ジェイドガーデンパレスにて、約 220 名の卒業生及び教職員が出席して、平成 28 年度同窓会入会式及び送別祝賀パーティーが開催されました。

同窓会入会式では、高津学部長、江口同窓会長、石堂後援会長からお祝いの言葉があり、卒業生・修了生を代表して法政策学科の福田了望さんが謝辞を行いました。

同窓会表彰は経済情報学科の伊達涼太さん（ドットジェイピーインターンシップ事業部の初代鹿児島支部代表）宮川湧太郎さん（弓道の全国大会で 2 年連続ベスト 4）法政策学科の杉山恵介さん（弓道の全国大会で 2 年連続ベスト 4）赤坂優太さん（ラグビーの全国大学地区対抗戦で 2 年連続準優勝）の 4 名が受賞されました。4 名の方には 江口同窓会長から表彰状と記念品が贈られました。



表彰者、左から、赤坂さん、宮川さん、杉山さん、伊達さん



代表謝辞、福田了望さん

2. 「三八楠法会」が大学に「恩師ゆかりの木」寄贈

昭和 38 年に入学した文理学部社会科学部法律専攻の同窓生でつくる「三八楠法会」が平成 29 年 3 月 23 日恩師で元鹿大学長の故石神兼文教授にゆかりのあるカイノキを総合教育研究棟の前庭に植樹をしました。

中国が原産のカイノキは昭和 58 年に石神教授が手に入れ構内に植樹しましたが、平成 27 年の台風で倒壊したため、「三八楠法会」が卒業 50 周年を記念し、会員が寄贈したものです。集まった約 30 人を前に坪地会長と高津学部長が苗木に土をかけました。また、当日は高津学部長の記念講演もありました。

3. 第 8 回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペ

平成 29 年 2 月 18 日（土）第 8 回鹿大北辰（文理・法文・理学部卒業生）ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。

「当日は絶好の天気恵まれ、42 名の参加で好スコアが続出し、4 月の鹿児島大学 OB ゴルフ大会に向けて弾みがつく大会となりました」と法文学部同窓会のホームページで紹介しましたが、結果は残念ながら 5 位でした。北辰ゴルフ会コンペの成績は以下のとおりです。

優勝	船川 壽穂（S 4 6 年、法文学部経済卒）	ネット	7 1. 8
2 位	牧 安伸（S 4 2 年、文理学部経済卒）	ネット	7 2. 6
3 位	木場 晃（S 4 1 年、文理学部理学科卒）	ネット	7 3. 4
ベストグロス	木場 晃（S 4 1 年、文理学部理学科卒）	グロス	7 7

第 9 回大会 平成 29 年 10 月 21 日（土）南国カンツリークラブ

◎ 皆様、奮ってご参加ください。

教育学部同窓会

教育学部同窓会設立 20 周年記念大会の開催について

教育学部同窓会は平成 30 年 8 月 5 日（日）に同窓会設立 20 周年記念を兼ねて行われます。

そのため、第 1 回の実行委員会が平成 29 年 3 月 18 日に開催されます。会議で各部会を設立し、記念総務部、記念行事部、広報・記念誌部、研修・文集部、同窓会の歌作成部会を作ることを決定し、20 周年記念大会に向けて準備を進めております。20 周年事業の一つ同窓会名簿はすでに(株)サラトによって刊行されて、購入を依頼された人にはすでにお手元に届いているかと存じます。企画しました中には同窓生の世界的指揮者下野竜也氏の指揮による演奏会も予定されていますので、多数の参加をお願いします。

教育学部「鹿児島の教育を語る会」のご報告

同窓会「鹿児島の教育を語る」の本会の行事は平成 28 年 11 月 25 日（金）に 16 時 10 分～18 時の間、教育学部理系管理棟 2 階大会議室を中心に行われた。

今年は「未来への挑戦」という副題のもと、まず、協議に先立ち石神会長、続いて土田理学部長の挨拶があり、その後 8 つの部会に分かれて、大会議室を中心に協議が行われた。

それぞれの部会は「未来への挑戦」の東研修部部長の説明を受けて、それぞれグループ協議会場へ移動し協議を行った。

例年は鍋を突っ突きながら、先輩と現役学生が語り合う恒例のノンアルコールの懇親会は今年は会場のレストランの日程の都合が悪く、懇親会は無く、協議の後、休憩をとり、協議グループ別に暫くの間、「反省会」を行って閉会し、会場整理の後、解散した。茶話会を行い、全ての「鹿児島の教育を語る会」を終わった。



【テーマの趣旨を説明する東副会長兼研修部部長】



【協議の最中】

理学部長就任のご挨拶

理学部同窓会 顧問 藏脇 淳一

全国各地でご活躍の同窓生の皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。平成29年4月から理学部長の任を担うことになりました藏脇淳一です。まず、自己紹介をさせていただきますと、昭和55年3月に鹿児島大学理学部化学科を卒業し、九州大学大学院総合理工学研究科を経て、昭和59年4月に鹿児島大学教養部化学教室の助手として鹿児島大学に着任いたしました。



あらためて、理学部の歩みをひもといてみますと、理学部の起源は1901年に設置された第七高等学校造士館にあり、その後1949年に文理学部（社会学科、文学科、理学科）が設置され、そして1965年に理学部（数学、物理学、化学、地学の4学科）が創設されました。更に1976年の生物学科増設を経て現在の理学部の母体である「5学科の理学部」が誕生しました。その後、1997年の教養部廃止に伴い学科の改組および名称の変更が行われ、下記に示す「4学科の理学部」が発足いたしました。なお、2004年に国立大学法人鹿児島大学理学部へ移行し現在に至っています。このたび理学部長の重責を担うにあたり、理学部の歴史の重みを改めて感じ責任を痛感しているところです。

現在、理学部では第3期中期目標・中期計画に基づき、理数教育特別プログラムやコア・サイエンス・ティーチャー養成コースなどの特色ある教育を展開するとともに、社会的要請の強い地震予知・火山噴火予知の研究や生物多様性ならびに天文学宇宙の研究などを積極的に行っています。これらの実績についてはホームページ等を通じて積極的に情報発信をしていきたいと考えております。また、私に課せられた大きな一つの使命は「関西理学部同窓会の設立」であろうと考えております。2009年に関東理学部同窓会が設立されていますが、多くの方々のご尽力により積極的に運営がなされており、心から感謝申し上げる次第です。少しでも早く関西理学部同窓会の設立に向けて努力してまいりますので、皆様方のご理解とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

今後とも諸兄姉の皆様にはご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。理学部長就任の挨拶とさせていただきます。



写真：鹿児島大学同窓会連合会懇親会での理学部同窓会の集合写真
(平成29年4月8日 城山観光ホテルにて)

医学部同窓会

医学科同窓会鶴陵会

医学科同窓会「鶴稜会會報」は毎年発刊し、すでに第45号を重ねている。全国で活躍の同窓生のことを思い表紙には桜島を毎回掲載している。今回は、九州最大規模の錦江湾サマーナイト大花火大会を背景とした桜島を掲げてみた。夜間でほとんど見えない桜島を背景とした2尺玉の2発同時打ち上げは、学びの地、鹿児島県の迫力を表している。

本稿では最新号の記事から全国で活躍の同窓生を紹介してみる。日本バレーボール協会の代表理事・会長を最近まで務められていた羽牟裕一郎先生（H4卒）から、「バレーボール漫遊記」の寄稿を頂いた。麻酔科の現役医師でありながら、A級審判員資格を取得し全日本チームの帯同医師として世界各国を飛び回り、国際バレーボール連盟にも深く関わられていました。脳卒中診療の全国的なリーダーである熊本市民病院の橋本洋一郎先生（S56卒）からは「熊本地震、何が起こり、何を行ったか」の寄稿を頂いた。橋本先生は車中泊の避難者に発生したエコノミー症候群への対策を勧め、早期発見予防のための活動を精力的に行いました。人生の3つの坂「上り坂、下り坂、まさか」のうち、「まさか」が熊本地震であったとのことである。ご存知のように昭和62年から平成5年にわたり鹿児島大学長を務められた井形昭弘先生は、名古屋学芸大学長として終生現役のまま平成28年8月12日に亡くなりました。難病対策の法制化に尽力し、また天皇皇后両陛下とご接見し人事院総裁賞を受賞され多数の随筆もある南風病院長の福永秀敏先生（S47卒）から、評伝「井形昭弘先生」という追悼文を頂きました。鹿児島大学に赴任された以降の魅力的な井形像をまとめていただきました。

（文責：医学科同窓会 鶴稜会副会長 熊本一朗）

保健学科看護学専攻部会

保健学科看護学専攻3期生卒業の梅木隆志と申します。鹿児島大学を卒業してから、早いものでもう10年以上が経過しました。以前は鹿児島大学病院医学部歯学部付属病院の看護師として勤務しておりましたが、現在は緩和ケア・ターミナルケアを中心とした緩和ケアにて勤務しております。先日、保健学科看護学専攻の学生に対して、看護実習の補助として臨時教員として短期間ではございますが、お手伝いをさせていただきました。同窓生として、保健学科看護学専攻のお役に少しでも立てたことに、同窓会・同窓生の絆を感じることでできた出来事でした。

保健学科同窓会看護部会は、看護学校時代～医療技術専門学校時代からの同窓会、通称「つめ草会」と統合して以来、年代の幅を超えたつながりをもっています。看護学校時代～医療技術専門学校時代の先輩方をつながりを持つことで、さらに歴史ある鹿児島大学の卒業生として、同窓生としての誇りをもつことができました。これからも先輩方や後輩とのつながりを大切に邁進していきたいと思っております。

（文責：保健学科同窓会会長 看護学専攻部会会長 梅木隆志）

歯学部同窓会

平成28年11月以降の歯学部の行事について

平成28年

- 11月17日 進路相談会…5、6年生、臨床研修医対象卒業生によるパネルディスカッションが行われました。
- 11月29日 桜ヶ丘体育館にて合同慰霊祭が行われました。

平成29年

- 1月22日 東京医科歯科大学歯科同窓会「新年名刺交換会」が行われました。
- 2月5日 日本大学松戸歯学部同窓会創立40周年記念行事…村上会長が出席しました。
- 3月11日 九州5大学歯学部同窓会連絡協議会が長崎大学歯学部の担当で開催されました。
- 3月18日 第二回評議員会が開催されました。
- 3月24日 鹿児島大学卒業式

平成28年度学位授与式・卒業謝恩会が行われました。
歯学部からは34期57名
(男性38名、女性19名)が卒業しました。



工学部同窓会

工学部同窓会の学生諸活動助成、諸活動支援について

工学部同窓会庶務幹事 曾我和弘

工学部同窓会では、工学部の学生会員の諸活動と幅広い交流を目的として、各学科年間3万円までの助成を行っています。平成28年度は、学生会員が企画した4件のイベント（表1）に助成を行いました。また、平成28年度は、工学部同窓会の「岸園基金」を活用して、工学部、理工学研究科、工学部同窓会の発展に資する諸活動を積極的に支援することを目的として、「工学部同窓会諸活動支援」を創設しました。これにより、学生会員の就職、進学、留学指導を目的とした集会、交流会、講演会をはじめ、同窓会会員および工学部教職員の研鑽を目的とした研修、講演会、集会、交流会、ワークショップ、発表会、展覧会など、幅広い支援が可能になりました。本支援では、一事業で、最大10万円までの助成を行っています。平成28年度は、表2に示す4件のイベントに助成を行い、好評を得ました。

工学部同窓会では、今後も引き続き、同窓会会員に対する助成を行い、学生、教員、卒業生との親睦を深めることができるよう努めるとともに、工学部の発展に資する諸活動を支援していきます。

表1 平成28年度の工学部同窓会学生諸活動助成

実施日	企画学科	助成対象イベント
平成28年6月19日	環境化学プロセス工学科	環境化学プロセス・化学生命ソフトボール大会（60名）
平成28年11月26日	電気電子工学科	第47回電気電子工学科バトミントン大会（50名）
平成28年11月1日	建築学科	建築学科1年生と教員の懇親会（82名）
平成28年12月4日	化学生命工学科	冬季環境化学プロセス・化学生命ソフトボール大会（約60名）

表2 平成28年度の工学部同窓会諸活動支援

実施日	企画学科等	支援対象イベント
平成28年9月23日	錦水会	最先端科学技術に関する施設見学会および交流会（54名）
平成28年9月26日	理工学研究科（工学系）	理工学研究科アメリカ海外研修 GOES 交流会（工学系29名支援）
平成28年10月22日	南窓舎密会	講演会「先輩の話を聞いてみよう」（107名）
平成29年3月9日	機友会	平成28年度学生と若手技術者との交流会 特別講演およびパネルディスカッション（151名） 懇親会（61名）



写真1 冬季環境科学プロセス・科学生命ソフトボール大会



写真2 理工学研究科アメリカ海外研修 GOES 交流会

農学部あらた同窓会

今回は平成 28 年に行われた「支部総会」と「クラス会・グループ会」について概略を記載します。詳細は「あらた同窓会報平成 29 年春季号」に掲載されています。

1. 「支部総会」(「支部便り」から)

①近畿・兵庫あらた会(平成 28 年 5 月 29 日): 例年の総会は 5 月第 4 土曜日に開催しているが、平成 28 年度は都合で日曜日になった。神沢亀貴顧問(化・昭 19 卒)・山本 稔顧問(林・昭 22 卒)など 25 人が出席、日高康貴会長(獣・昭 37 卒)の挨拶に始まり、議事・近況報告などを行い、山下高德副会長(農・昭 37 卒)の挨拶で閉会した。【柳田興平(獣・昭 46 卒)記】

②佐賀あらた会(平成 28 年 7 月 9 日): 昭和 17 年卒の大先輩から平成 28 年卒の新卒者まで幅広い年齢層の 30 人が出席、古賀俊光会長(園・昭 54 卒)の挨拶で開会し、議題・懇親会で盛り上がり、深町淑郎副会長(林・昭 49 卒)の挨拶で閉会した。【佐藤智明(農・平 2 卒)記】

③熊本あらた会(平成 28 年 11 月 11 日): 47 回目となる熊本あらた会には 45 人が出席した。東 正隆会長(総農・昭 38 卒)の「平成 28 年 4 月の熊本地震からの復興状況」などを含む挨拶で開始、議事・懇親会の後、鹿児島高農校歌を全員で唄い散会。【東 正隆(総農・昭 38 卒)記】

④鹿児島支部(平成 28 年 10 月 21 日): 鹿児島支部の総会は毎年 10 月第 3 金曜日に開催することになっている。職域・個人対抗戦のボウリング大会に引き続き、68 人の出席で総会を開催した。総会・懇親会は、佐野岩男会長(農・昭 49 卒)の挨拶で始まり、ボウリング大会個人優勝の永田良治さん(園・昭 63 卒)の挨拶で締めくくった。【南蘭 覚(農・昭 56 卒)記】

⑤宮崎あらた会(平成 29 年 2 月 4 日): 昭和 20 年卒の大先輩から平成 8 年卒の若手会員まで幅広い年代の 30 人が出席した。小川佳彦会長(総農・昭 35 卒)の挨拶に始まり、園芸・平成 8 卒の谷口泰成・香菜夫妻の挨拶などで盛り上がり、記念撮影の後閉会した。【荒武正則(畜・昭 48 卒)記】



鹿児島支部ボウリング大会

2. クラス会・グループ便り 4

① F31 卒第 12 回(卒 60 周年)同窓会イン久留米(平成 28 年 5 月 12・13 日): 2 年毎に行っている林学科昭和 31 年卒業の第 12 回目の同窓会を全国から 83 歳 13 人が集まって開催した。2 年後の静岡での開催を誓って散会した。【岩崎健生・瀬戸口 俊(林・昭 31 卒)記】

② F32 卒の同窓会(平成 28 年 4 月 13・14 日): 札幌、東京、愛知、福岡、熊本、鹿児島から 10 人が鹿児島市に集まり、高隈演習林実習等の思い出話で盛り上がった。【上野達木(林・昭 32 卒)記】

③鹿児島支部・鹿児島市役所だより: 鹿児島市役所には、農業・林業・獣医・土木などの職種に 109 人の会員が在籍、田中隆義会長(農・昭 59 卒)、星野泰啓副会長(化・昭 58 卒)を中心に、年 1 回の総会開催、支部・本部総会参加など活発に活動している。【猿川博久(工・昭 63 卒)記】

④「対岳寮」同窓会(昭和 40 年代前半の在寮者有志)を盛大に開催(平成 28 年 11 月 26 日): 農学部の専門寮であった「対岳寮」に昭和 40 年代前半に在籍した九州地域在住者・配偶者 20 人で開催。50 年ぶりの思い出を語り合い、寮歌を歌って楽しんだ。【和泉勝一(農・昭 43 卒)記】



対岳寮同窓会の様子

水産学部同窓会魚水会

水産学部 同窓会 魚水会2017東京大会（全国総会）開催される

平成29年6月3日（土）東京駅八重洲口前のAP東京会館（東急グループ）において魚水会2017東京大会が全国から多数の会員が集まり盛大に開催されました。最初、4月に亡くなられた伊牟田前会長や多数の物故者に対して黙祷し慰霊をしました。

今回は特に若い会員や女性会員も多く将来が楽しみです。

魚水会全国総会は2年に一度全国の都市を回って開催されますが今年は東京の順番でした、特に今回は『鹿児島大学「進取の精神」支援基金』の300万円の寄付について理事会で採んで大学の為ならと今回の総会で満場一致にて可決されました。

その後、NHKの「独眼竜政宗」などで視聴率記録を持つジェームス三木さんが「君の人生は輝いているか」の題で楽しくお話しされました。

懇親会に移り、余興で全国の支部から集められた土産物の抽選会があり全員にいきわたりました。最後は91才の卒業生が伊牟田さんの心酔しておられた西郷さんの由縁の「城山」を詩吟で吟じ、最後は全員輪になって「かごしま丸出港の歌」と「水産学部校歌」を巻頭言も交えて学生時代に返り大声で歌い次の開催地の鬼丸鹿兒島支部長の万歳三唱で次回の再会を約束して銀座や新橋へ。



魚水会・水産学部開学70周年記念事業・記念誌発刊される。

水産学部も開学70周年を経て、一昨年城山観光ホテルにて鹿児島県知事や前田学長を来賓にお招きして盛大に開催できました。事業の一環として歴代の恩師や各界の活躍した昭和40年卒までの人々を掲載しました。又、魚水会同窓には現在一部上場企業の社長が3人います。その後の卒業生は75年か80年の時期に刊行出来たらと思います。

もどっきゃんせ DAY 開催される

恒例の「もどっきゃんせ DAY」（水産学部OBと学生、水産学部の先生方が集う会）が平成28年（2016）12月14日（水）に実行されました。

当日は特別講演会として卒業生で一部上場企業の林兼産業(株)の熊山忠和社長に「旅費も宿泊費も講演料も出ないけど学生やOBに何か話して貰えないでしょうか」とお願いしたら「後輩の学生の為なら」と快く引き受けていただき、『企業から求められる人物像』と題して約1時間、講演していただきました。ウイークデーにかかわらず百数十名の学生やOB、先生方が拝聴しました。熊山さんは「勉強はもちろんですが、勉強よりもまず企業が求めているのは元気に明るく挨拶が出来ること、挨拶は人間の基本的なことなので元気に挨拶するように」といろいろな経験を交えてユーモアたっぷりにお話しされました。



その後、生協食堂に場所を替えて懇親会を開催しました。卒業生の勤務する会社などからはカンパチやマグロの刺身や宇和島ジャコ天や焼酎の差入などで安く上がり学生は3年生以上大学院生まで（飲酒の関係で1～2年生は不可）は無料、その他は1000円会費にて開催しました。

最後の締めは、講演会講師の熊山さんが今、「笑う門には福来り」と全国に流行らせていると言う「笑い三唱」を全員で熊山さんの音頭で大いに笑い閉会となりました。

大好評だったので今年も同じように開催出来るようにしたいと思います。

▶特別寄稿文◀

医科歯科連携医療 – 新たなシステム作りに向けて –

鹿児島大学病院 歯科口腔ケアセンター 山口 泰平

医療、介護の分野では今後の方向性のひとつとして多職種連携がうたわれている。その中で医科歯科の連携による効果的な高度医療の提供が推奨されている。鹿児島大学病院では10年以上前から歯科のスタッフが医科の病室に訪問して、治療や口腔ケア管理を行ってきた。

歯槽膿漏があると、糖尿病、動脈硬化、心臓病、出産などに影響することが知られているが、同様に全身麻酔による手術や、化学療法など高度医療に際しては口の状態が後の治りに影響してくることが明らかになってきている。重度のむし歯、歯槽膿漏はそれ自体が感染症であり、化膿して膿が溜まっている。さらに清掃状態が悪いことだけでもばい菌（細菌）の棲み処になっている。これらを残したままでは、手術の後に肺炎や、発熱の持続に悩むことがある。また、化学療法では口内炎などの有害事象が重篤化することがある。近年、これらは術前術後の歯科処置により改善することが分かっている。

こうした中で、平成24年に医科歯科連携が正式に保険適応となったことを受け、新たなシステム作りが必要になった。まず歯科口腔ケアセンターを設立して医科の各診療科に対して、歯科処置依頼の窓口を一本化することで積極的な歯科紹介を依頼した。次に医科入院が決まった際の説明を行う入院支援室内に「歯のチェック室」を併設して入院前の歯科治療を勧告することで、入院後の手術などに支障が出ないようにした。同時に入院後の歯科予約を取ることで入院直後からの管理が可能になった。これらのことから、毎月約120件の医科患者を新規に受け入れている。

しかし現在のところ歯科管理に入っている患者は対象の3分の1以下である。将来的には全ての患者をフォローできなければならない。ネックになっているのは立地上の問題である。医科外来、病棟と歯科診療棟が700から800メートルも離れており、医科外来を受診した患者が歯科を受診しづらい、あるいは、入院患者が歯科を受診するのに、車いすが列をなして長距離を移動しているのが日常的な光景である。現在、鹿児島大学病院は再開発中であり、歯科診療室は平成35年竣工予定のA棟に移転することが決まっている。最終の到達目標をこの時点として、青写真を描いているところである。病院の再開発とは、単に建物が新しくなるだけでなく、同時に様々なシステムを開発、改善して、効果的な高度医療を提供する体制を作っていくものである。医科歯科連携はその一例だが、一端を感じていただければ幸いである。



歯のチェック室の様子



医科病室での口腔ケアの様子

実戦で役立った化学工学

前田 雄一（工学部化学工学科 S49年卒業）

中学ではバスケット、高校では弓道に夢中で成績は中くらいであった。弓道部1年生の時の熊本県新人戦（3人でのチーム戦）で運よく優勝し、弓道部顧問の化学の先生が「お前達は弓道で優勝したから」と言って、試験の成績に関係なく化学は最上位の「5」をつけてくれた。今頃あんな先生はいないと思うが、そんなことがきっかけで、化学が好きになり、鹿大の化学工学科に入学することができた。

大学時代もあまり勉強はしなかったが、友達と化学工学科の助手（のちに教授になられた）の方の支援もあり何とか進級した。4年の初めに、「みんな就職が決まっているぞ」と当時の就職担当の渡辺憲一先生に呼び出され、先生に「どんな会社に就職したいか？」と問われ、「大きな会社でなくてもいいので、できれば機械メーカーがいい」と答えた。先生から大阪で特殊な化学機械を作っているメーカーとして勧められたのが日阪製作所で、面接と筆記試験をうまく潜り抜け、運よく入社できた。先生が日阪製作所のプレート式熱交換器や濃縮器を知っておられたのが縁であった。

鹿大からの入社は私が初めてで、配属にあたり設計開発を希望したが、熱交換器の営業に配属になった。当時の営業課長が「3ヶ月しても嫌なら、お前の好きなところに行かしてやる」と言われ、頑張る気になった。今でも「九州出身ですか」とよく言われるが、最初は田舎のなまりがもっと強く、電話を取るのも、会議で発言するのもいやだった。しかし、3ヶ月はあつという間に過ぎ去った。いざ営業の仕事の見習いを始めると、分からないことばかりで、学生時代の付をはらうように勉強した。私の配属部門はプレート式熱交換器や濃縮器を設計・製造しており、伝熱の知識がこんなにも実戦で使われていようとは思ってもいなかったが、それ以上に営業マンもその知識を必要とするとは考えもしなかった。計算尺の使い方から徹底的に教え込まれた。営業という仕事を全く勘違いしていた。化学工学の教科書や大学入試の時に作成した化学のノートがこんなところで役に立とうとは思ってもみなかったが、お客さんのところに行く化学工学（特に流体の流れ、伝熱等）や化学の知識が大いに役に立った。当時は高度成長時代が終わり、オイルショック、ニクソンショックが日本経済を襲い「構造不況業種」なる名前で、いろいろな業界で不況の風が吹き荒れていた。営業課長からは「8時半にはお客さんの会社に行っておけ！」とか「月に80社以上回れ！」という檄が飛んだ。そうした中で先輩方から多くの会社を引き継ぎ、ほとんど会社に居ることなく外回りをしていった。最初は機械金属やめっき関係の中小会社が多かったが、そのうちに大手の化学会社も担当させてもらった。注文もないのにいろんな会社に行っては「参考でもいいですから見積もりをさせて下さい」と既設の仕様をもらっては参考見積もりを作って持っていった。そんな中でお客様に「この熱交換器の用途って何ですか？」と聞くと、簡単なフローを書いてくれる方が多かった。そこに化学式が出てきても何の違和感もなく理解が出来たため、お客さんには「営業のくせにわかるのか？」などと冷やかされたが、結構気に入ってもらえて、更新時の注文につながるが多くなってきた。当時の上司に「なかなか営業のセンスがいいぞ」とおだてられ、営業が面白くなっていった。大学の時は試験前のやつだけ勉強だったのでほとんど頭に残らなかったが、なるほど「あの時、先生が言っていたことはこのことだったのか」と納得できた。私は、就職した先で「化学工学」がこんなにも役に立つとは思ってもいなかったし、最初の大きな買い物「化学工学便覧」になるとは想像もしていなかった。ただ、粹な先生達との出会いや営業という仕事の中でのお客様との出会いがあり、そんな良縁が今の私を育ててくれたのは間違いない。ちょっとした事で「化学工学」と出会い、化学の先生に勧められて入った会社で、営業として歩んだ会社人生のほとんどが、いろんな人の言葉に反応して、今があるように思う。化学工学を学んだことは、本当に実戦で大いに役立った。この後、どのように化けるかは自分次第なのであるが、不思議な反応を夢見て、まだまだ積極的に歩んでいきたい。

株式会社日阪製作所（〒530-0057 大阪市北区曽根崎2-12-7）

代表取締役会長 前田 雄一

TEL：06-6363-0006（代）；URL：http://www.hisaka.co.jp/

「技術士」の“目”で鹿児島環境を診る

東 正樹（工学部応用化学工学科 H8年卒業）



私は平成10年に工学研究科を修了し、名古屋での数年の武者修行を経た後、Uターンして現在の会社、(株)鹿児島環境測定分析センターに入社しました。父のあとを引き継ぎ代表取締役社長に就いて5年が経過します。本紙面をお借りして弊社の業務内容及び環境分析業界内外の状況をお伝えいたします。

弊社の主な業務および測定対象を表に示します。対象はいわゆる公害と呼ばれるものから身の回りの快適環境維持に関するものまで多岐に及びます。また、近年起きた化学工場での事故等への対策として化学物質のリスクアセスメントなど新たな要請も発生し、それを受けて、環境改善のためのコンサルティングも開始しました。実は鹿児島大学でも、研究室での作業環境測定などを行っており、母校の発展に貢献させていただいています。



表 (株)鹿児島環境測定分析センター 業務内容等

主な業務	水質や大気など環境試料の分析；騒音振動測定；生活環境影響調査；作業環境測定；飲料水検査；肥料や飼料の分析及び植害試験；建築物のアスベスト調査；温泉成分分析；異物同定試験や不良原因調査；講習会への講師派遣；など
測定対象の例	工場排水・河川・湖の水質；排出ガスや環境大気；悪臭；工場や病院等の跡地の土壌汚染；建材アスベスト含有量；シックハウス原因物質；清潔区域の浮遊菌；など
鹿児島大学での仕事例	作業環境測定；排ガス測定；騒音振動測定；シックハウス測定；局所排気装置の設計及び施工管理；リスクアセスメント講習会講師；など

弊社は、計30数名の中小企業ですが、化学分析の技術者集団であると僭越ながら自負しています。技術型中小企業のリーダーは、経営的な視点を有するだけでなく、先頭に立って業務を執り行う技術者でもあることが求められます。私は、弊社が技術者集団であることを証明するためにも、様々な技術者資格をこれまで取得してきました。特に「技術士」は、科学技術の応用面に携わる技術者にとって最も権威のある国家資格であり、技術士であることは、科学技術に関する高度な知識と応用能力を有することが国によって認められていることを意味します。工学部でも学生にその意義を教え、取得を強く指導しているようです。



分析業界は様々な環境問題、特にダイオキシン問題の発生以降、社会的要請により業務の拡大が続いてきました。しかし近年、そのピークは過ぎ、安定成長または縮小傾向が見られます。弊社の事業が今後も社会に必要とされ、継続・発展していくために、より高度で独自の分析技術の習得・開発、分析精度の維持向上、コスト削減などに日々取り組んでいます。

最後に、弊社では分析技術や科学的知見によるアプローチが必要な諸問題の解決に貢献してまいります。お力添えできることがあれば是非お声掛けください。

株式会社鹿児島環境測定分析センター（〒891-0131 鹿児島市谷山港2丁目5番地11）

代表取締役社長 東 正樹（技術士（環境部門）、労働衛生コンサルタント）

連絡先：TEL 099-201-4177 FAX 099-201-4178

E-mail：bunseki@kagoshima-kankyo.com；URL：http://www.kagoshima-kankyo.com

平成29年度 鹿児島大学同窓会連合会総会・懇親会～卒業生の集い～を開催

4月8日（土） 城山観光ホテルにて総会・懇親会～卒業生の集い～が開催されました。総会議事は下記のとおりです。その後の懇親会は関東、福岡、ブラジル各支部からの参加もあり盛会のうちにお開きとなりました。

（参加者：総会70名、懇親会174名）

- 1 開会のあいさつ
- 2 鹿児島大学同窓会連合会長のあいさつ……………江口正純会長
- 3 鹿児島大学長のあいさつ……………前田芳實学長
- 4 協議
 - 1) 平成28年度事業報告（案）
 - 2) 平成28年度収支決算（案）
 - 3) 平成28年度監査報告
 - 4) 平成29年度事業計画（案）
 - 5) 平成29年度収支予算（案）
- 5 鹿児島大学の近況について
- 6 その他
- 7 閉会のあいさつ

<懇親会～卒業生の集い～の様子>



理学部近況報告



水産学部近況報告



全員で「北辰斜に」大合唱



平成 28 年度一般会計決算書

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

平成 29 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

収入の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考
繰越金	100,306	100,306	0	
学部別同窓会分担金	800,000	800,000	0	振込手数料は振込者負担に
総会・懇親会費	960,000	990,000	30,000	6,000 円 × 165 名分
OB ゴルフ大会協力金	50,000	50,000	0	
雑収入	150	60	- 90	利子
繰入金	100,000	100,581	581	定期貯金より
寄付金	0	0	0	
合計	2,010,456	2,040,947	30,491	

支出の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考	
会議費	100,000	94,509	- 5,491	幹事会・役員会	
総会・懇親会費	1,020,000	1,052,160	32,160	総会会場費・懇親会費	
印刷費	600,000	582,120	- 17,880	会報 22 号・23 号(支部分含む)	
人件費	120,000	120,000	0	事務員給料	
事務費	備品費	10,000	4,050	- 5,950	名札
	通信運搬費	20,000	20,518	518	切手、振込手数料
	事務雑費	5,000	2,382	- 2,618	コピー用紙など
旅費	50,000	50,000	0	関西立上準備 1 名	
雑費	10,000	510	- 9,490	残高証明手数料	
慶弔費	30,000	0	- 30,000		
予備費	45,456	16,740	- 28,716	「きばいやんせ鹿大生 2016！」講師陣との懇親会費	
合計	2,010,456	1,942,989	- 67,467		

次年度繰越金：2,040,947 - 1,942,989 = 97,958 円

平成 28 年度定期貯金決算書

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

通帳（郵便定期）	400,000
郵便定期貯金利息	28
合計	400,028

平成29年度一般会計予算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(単位：円)

収入の部

項目	前期決算額 (A)	予算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考
繰越金	100,306	97,958	- 2,348	H28年度繰越金
学部別同窓会分担金	800,000	800,000	0	振込手数料は振込者負担に
総会・懇親会費	990,000	990,000	0	165名分×6,000円
OBゴルフ大会協力金	50,000	50,000	0	
雑収入	60	42	- 18	利子
繰入金	100,581	0	- 100,581	定期貯金より
寄付金	0	0	0	
合計	2,040,947	1,938,000	- 100,599	

支出の部

項目	前期決算額 (A)	予算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考	
会議費	94,509	80,000	- 14,509	幹事会・役員会	
総会・懇親会費	1,052,160	1,050,000	- 2,160	総会会場費・懇親会費	
印刷費	582,120	520,000	- 62,120	会報24号・25号(支部分含む)	
人件費	120,000	120,000	0	事務員給料	
事務費	備品費	4,050	5,000	950	
	通信運搬費	20,518	20,000	- 518	切手、振込手数料
	事務雑費	2,382	3,000	618	コピー用紙など
旅費	50,000	70,000	20,000	福岡(28年度分)・関東	
雑費	510	10,000	9,490		
慶弔費	0	30,000	30,000		
予備費	16,740	30,000	13,260		
合計	1,942,989	1,938,000	- 4,989		

平成29年度定期貯金予算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

通帳(郵便定期)	400,028
郵便定期貯金利息	32
合計	400,060

鹿児島大学同窓会連合会並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会

〒890-0075
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会

〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

鹿児島大学法文学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-30
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-40
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

鹿児島大学教育学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail aratakai@mc2.seikyuu.ne.jp

鹿児島大学理学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-35
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学水産学部同窓会

〒890-0056
鹿児島市下荒田4-50-20
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会

〒890-0075
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学 同窓会連合会

〒890-0075 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

印刷 斯文堂株式会社

〒891-0122 鹿児島市南栄2丁目12-6
TEL 099-268-8211 FAX 099-269-5198
e-mail info@shibundo.jp